

●世界の美人を探しても

|| 之に優るものは無い「春のひかり」 ||

(黒田清輝畫伯談)

「時事新報」の新年繪附録にコランの「春のひかり」を出す相です、私は往年佛蘭西留學中コラン氏に師事マしたマこの

▲原畫も親しく見てゐるので我邦に斯る傑作の紹介されることを非常に喜んで居る者であります、此の繪は澤つややかな頭髮かみのけに純白の崇高な一輪の薔薇ききを翳さした婦人の半身像ですが、凡そ美人畫と云ふことには婦人風俗の一般、又或る意味で婦人の美しい容姿といふ意味が含まれて居り、畫家の描いた容貌姿態は實際のものよりは美しく出来上つてゐる、俗に「宛然まを繪に畫いた様だ」と云ふ詰まり世間では實際の世の中の女より繪に畫いた女の方が遙に美人だと思つて居る、所が畫家の方からはその實つそんな心算つもりではなく随分各自勝手氣儘に描いてゐるのであつて、私共の眼から見ると描かれた美人繪に眞の美人は居ない、却て

▲現實の婦人の方が優れて美しい。往昔むかしには随分人口に膾炙された美人の肖像畫もあるけれど、これはと云つて驚嘆するものは實に實に乏しいものであります。眞の美人畫を描くといふことは成程至難の業であらうと思はれます、昔の泰西の美人畫と云へばそれこそ希臘の彫刻的な冷たい血の氣の失せた極めて人間味に乏しいものが多く、左様かと云つて近代畫には餘りに人間といふ者を描き過ぎて美人などは眼中にないので、美しい婦人を描いた繪は亦近代にも求め難い然るに右のコランの繪は目鼻立ちなり筋肉の上から云つても決して希臘式、古典的の

美人ではなく、十分

▲人間味ある美人畫に出來てゐまして、これなれば一見して成程この世にも這麼こんな美しい婦人があるかとその美の威嚴に打たれさせる力を持つて居ります、古今を通じて恐らく斯る美人畫は此れを措いてはありますまい、コランは殊に婦人の裸體畫が得意でその色彩等實に精緻綺麗を極めた人だが、美貌の點から云へば餘り好いと思つたのは從來無かつたのですが、私の知る限りに於てこの繪の如きは先生の新舊作品を通じて第一の美人畫であると敢て推稱するに憚りません、然らばこの美人畫のどの點が好いかといふことになると曰く言ひ難し、この數語にして盡ぎると思はれる、完全した眞の美人にはどここと云つて指摘し得る缺點も美點もないからであります、されば先づ美人畫で古來から有名なラファエルもチ、アンもこの繪の強い美貌から來る感じに比べては劣るとも決して優りはしない、それほど傑出した作品と云ふことが出來ます、

『時事新報』大正四年二月二十五日